■カーソルマネージャ

■中村 宏行

■2013/07/24

カーソル移動を制御するクラスです。

WBでもありましたが、タッチ操作は無くなっています。（ボタンマネージャがあるため）

●ファイル構成

include/app/tool/app\_tool\_CursorManager.h

include/app/tool/app\_tool\_CursorManager.cpp

●移動データ作成方法

データ最大数は256個です。

**例１）**カーソル移動位置が以下のように表示されている場合の移動データ

0, 1, 2,

3, 4, 5,

　※数字はID。上下ループなし、左右ループあり

const MOVE\_DATA sampleMoveData[] =

　{ // ID, 上移動先, 下移動先, 左移動先, 右移動先 ( 移動先はインデックス番号 )

{ 0, { 0, 3, 2, 1 } },

{ 1, { 1, 4, 0, 2 } },

{ 2, { 2, 5, 1, 0 } },

{ 3, { 0, 3, 5, 4 } },

{ 4, { 1, 4, 3, 5 } },

{ 5, { 2, 5, 4, 3 } },

};

１つのカーソル位置に複数の場所からいける場合、移動履歴に頼るよりも移動データを複数作ったほうがきれいに動作します。（ただし、データ量は増える）

**例２）**0,1,2から上移動で6へ、3,4,5から下移動で6へ移動する場合の移動データ

0, 1, 2,

3, 4, 5,

6,

　※数字はID。上下ループあり、左右ループあり

const MOVE\_DATA sampleMoveData[] =

　{ // ID, 上移動先, 下移動先, 左移動先, 右移動先 ( 移動先はインデックス番号 )

{ 0, { 6, 3, 2, 1 } }, // 0:

{ 1, { 7, 4, 0, 2 } }, // 1:

{ 2, { 8, 5, 1, 0 } }, // 2:

{ 3, { 0, 6, 5, 4 } }, // 3:

{ 4, { 1, 7, 3, 5 } }, // 4:

{ 5, { 2, 8, 4, 3 } }, // 5:

{ 6, { 3, 0, 6, 6 } }, // 6: 0,3からの移動先データ

{ 6, { 4, 1, 6, 6 } }, // 7: 1,4からの移動先データ

{ 6, { 5, 2, 6, 6 } }, // 8: 2,5からの移動先データ

};

●改善点

タッチ操作と分離したが、ボックスなど、タッチ位置からカーソルを移動させる処理を自前で作成した箇所が多かったため、タッチ操作と連動した処理を作るべきでした。